

くすり博物館だより

VOL. 46

平成13年(2001)10月

NAITO MUSEUM OF PHARMACEUTICAL SCIENCE AND INDUSTRY



内藤記念くすり博物館
〒501-6195 岐阜県羽島郡川島町竹早町1
Tel:058689-2101 Fax:058689-2197
http://www.eisai.co.jp/museum/

特別展 はやり病の文化誌 —麻疹・疱瘡・コレラ— 2001年4月25日～11月25日

テーマ特集◆はしか絵・疱瘡絵・コレラ絵

江戸時代末期から明治にかけて、麻疹(はしか)や疱瘡(天然痘)、コレラが流行した折には、さまざまな錦絵が作られ、人々の手に渡りました。このようなはやり病の錦絵には、流行した発端や、流行の歴史、病気の経過、養生の方法、食物などの禁忌がわかりやすく紹介されています。また、描かれた題材も、病気を引き起こす疫病神を退治したり、村や町の外へ送り出したりしている場面、まじないのやり方などさまざま、中には当時の社会状況を風刺したものもあります。はやり病について単に情報を伝えるだけでなく、当時の人々が健康を祈り、願い、病気に打ち勝とうとしたエネルギーにあふれているといえます。

現在では生活環境・衛生思想の向上、医学の進歩による治療薬の開発などの結果、疫病の死亡率は減少してきました。ともすれば薬に頼り、日頃の養生を忘れがちな私たちですが、いかに病気とつきあい、向きあっていくかについて、これらの錦絵を通して改めて見つめたいと思います。

今回の特別展では、その当時に出された「錦絵」や「ちらし」を中心に、古書籍などもあわせて展示しています。

麻疹は麻疹ウイルスによる急性伝染病で、現在では予防接種がありますが、感染力が強いので、昔は恐れられていました。

はしか絵は、江戸時代に麻疹が流行した時に作られた錦絵を指します。錦絵とは多色刷り版画の浮世絵で、色数が多く、錦(=金銀のさまざまな織物)のように美しいのでこのように呼ばれました。はしか絵に書かれている内容は、①病気が軽くなるおまじない、②病気にかかっている間の生活の仕方(養生の方法)、③食べてよいもの・悪いものなどさまざまでした。麻疹が大流行した1862年(文久2)には、特に大量に作られました。

はしか絵に見られるおまじない

はしか絵には、いくつかおまじないに関係のある絵があります。しかし、なぜこれがおまじないになるのか、その理由は書かれていません。

南天は難を転じ、杵は病を突き砕く願いがこめられているようです。飼馬桶(かいばおけ)や、ご飯を炊いた直後の熱い釜(ご飯はおひつへ移しておく)は、病人にかぶせるとよいといわれました。このほか、麦の穂、タラヨウの葉、ヒイラギの葉、キンカンの実を門口に吊るし、病気が家の中に入って来ないように、というおまじないもありました。とがった葉は悪鬼を退けるといわれ、またのどが痛い時にキンカンを用いるので、そこからの連想かもしれません。

字を書くことができる葉

はしか絵には、タラヨウの葉がよく描かれています。タラヨウはモチノキ科の常緑高木で、西日本で庭木としてよく植えられています。葉の裏を楊枝などで引っかくと、その部分がみるみるうちに黒ずんで、ちょうど墨で文字を書いたようになります。この性質が、インドで経文を書くのに葉を用いた貝多羅樹(ヤシ科; 多羅樹ともいう)に似ているところから、貝多羅樹のような葉という意味のタラヨウという名前になったそうです。

タラヨウの葉▶

はしか退散のおまじないは「麦殿は生れながらに麻疹してかせる跡は我身成けり」という言葉であった。(文字は当博物館で記した。)

<>内は資料のサイズ。単位はcm。



上から
むぎどのは生れぬ先に
芳盛画/1862年
(文久2)<37×25>

はしかまじないの歌
一秀斎芳勝画/1862年
(文久2)<36×25>

はしかのまじないたらよう
の葉
一英斎芳艶画/1862年
(文久2)<36×24>



「はしか絵」ってどんな絵なの?

「疱瘡絵」は「赤絵」とも呼ばれるの？

疱瘡は天然痘ウイルスにより高熱を発する病気で、1796年にイギリスのジェンナーによって牛痘接種法が発見されるまでは死亡率の高い伝染病でした。しかしワクチン療法の普及により、1980年(昭和55)にはWHOが疱瘡(天然痘)の根絶を宣言しました。

日本では「続日本紀」に、735年(天平7)の流行の記録が残されており、それ以後、たびたび流行しました。そのときにまじないの赤一色の絵が作られました。

赤色が使われた理由は、古くから赤は魔除けの色とされ、疱瘡の神様も赤い色を嫌ったからといわれています。また、疱瘡の時にできる痘疹の色が赤くなると無事回復するということがあって、護符として赤い絵が描かれました。そのため、「疱瘡絵」を「赤絵」と呼んだようです。病気のこどもがこの絵を見てなぐさめられるように枕元に置いたり、お見舞いに持って行ったりしました。病気が治ると、病気によるケガレを祓うという意味で、川に流されたり燃やされたりしたため、現存するものは多くありません。

「赤絵」の絵柄いろいろ

赤絵には、桃太郎や春駒のような縁起物や、源為朝や鐘馗などの強い武人が描かれました。また、絵と同じ理由から、赤色の玩具も病気のこどもに与えました。

中村芝翫(しかん)九変化ノ内
五渡亭国貞画/1815~1842年
(文化12~天保13)
<41×29>
鐘馗に追われて逃げていく青鬼が描かれている。

梅と犬張子と春駒
一光斎芳盛画/1857年(安政4)
<22×34>
雪の中に花開いたばかりの梅の花は、生命力の再生を象徴し、雪の上の足跡は発疹が減り、回復する状態を表している。



「小児必用養育草(しょうにひつようそだてぐさ)」

香月牛山著/1703年(元禄16)
近世期に広く読まれました。「屏風衣術(いこう)」に、赤き衣類をかけ、その稚児にも赤き衣類を着せしめ、看病人も、みな赤き衣類を着るべし、痘の色は赤が好とする故なるべし」と書かれている。

疱瘡神図
竹翁雲舟庵等周筆/江戸時代<73×31>
日本では、恐ろしい神様でも西洋のように撃退せず、供物を捧げてもてなしたり、神様が嫌いなものを置いて近寄らせない、あるいは早く退散してもらうようお願いする風習があった。



コレラは漢字で「虎狼狸」？



虎列刺退治(これらたいじ)
木村竹堂画 1886年(明治19)<31×43>
頭が虎で胴が狼、睾丸が狸のコレラの怪獣に向かって、衛生隊が石炭酸を噴射しているが、怪獣の激しい勢いに押され気味の様子が描かれている。

コレラは、コレラ菌が激しい発熱と下痢、脱水症状をもたらす伝染病で、短時間で症状が進みます。当時の人々は、その急激な様子を「一日に千里を往く」虎に例え、恐れしました。また、特效薬がなく、数日でころりと死んでしまうことから「コロリ」とも「三日コロリ」とも呼ばれました。

蘭方医(江戸時代のオランダ医学を学んだ医師)は、オランダより入手した本により「酷列刺」という字を当てたり、「印度霍乱(かくらん)」という訳語をつけたりしました。このほかにも虎のイメージから「虎列刺」「虎列拉」「コロリ」の当て字としては「頃痢」「古呂利」という字が使われました。中でも、「虎」の頭、「狼」の身体、「狸」の睾丸を持った怪獣「虎狼狸」は、漢字のイメージと病気の恐怖、絵柄がうまく合った例です。

しかし、コレラ絵はどことなく、こっけいな印象を受けます。これは、手に負えないコレラ(の怪獣)や、世情不安の折にほろもうけする人々を皮肉ることによってちょっとした笑いを誘い、病気の流行で社会が騒然としている中で、恐怖や不安を鎮める効果があったのではないのでしょうか。



通神鳥(つかみどり)
江戸時代<35×46>
空想の怪鳥「通神鳥」は、コレラの流行による「もうけのつかみ取り」を皮肉っぽく絵で表現したもの。病気にかかった人や亡くなった人が多かったため、もうかかったと思われた薬屋・火葬場の人・僧侶と彼らの使う道具が組み合わさって、鳥の姿になっている。しかし、文の最後にはこのような絵を見ることにより、世は無常なものと考えて自分を大切にすることを説いている。

はやり風「印弗魯英撤」はインフルエンザのこと？



はやり風用心
1890年(明治23)<40×76>
このちらしの薬屋には「お染久松るす」とかいた紙がはってあります。道連れにされては困るので、このような貼り紙をしたのでしょうか？

◀ 拡大図

治療の研究

はやり病については、医師もいろいろと研究を重ね、海外の医薬書を翻訳して、最新の有効な治療方法を探りました。特に天然痘については、ジェンナーが発見した牛痘接種法のやり方を紹介する本が多く刊行されました。コレラについても緒方洪庵が「虎狼痢治準」を出し、コレラの治療方法にひとつの指針を示しました。

インフルエンザ(流行性感冒)はインフルエンザウイルスによって起きる伝染病です。かかると高熱を発し、頭や手足が痛んだり、急性肺炎を起こしやすく、現在では流行が予測されると予防接種を受ける人が多いようです。江戸時代末期には、幕府の奥医師だった伊東玄朴が、ドイツの内科書を翻訳して「医療正治」[1835年(天保6)]を出版しました。玄朴はこの本の中でインフルエンザを紹介し、初めて「印弗魯英撤」という漢字を当てました。

インフルエンザの世界的な流行は何度かありましたが、1890年(明治23)から翌年にかけて日本に及んだときは、俗に「お染久松風」と呼ばれました。「お染久松」とは情死した商家の娘と丁稚の名前で、浄瑠璃や歌舞伎にも取り上げられました。その時のインフルエンザの伝染力が強く、親しい人にすぐ伝染して道連れにすることから、この名がつけられたようです。

「虎狼痢治準(ころりちじゅん)」
緒方洪庵著/1858年(安政5)
緒方洪庵は大阪の高名な蘭学者で、コレラ流行時に、西洋の医学書を訳して治療法をまとめ、紹介した。長崎在住のオランダ軍医・ボンベが提案したコレラにキニーネを用いる治療法には賛成せず、批判している。



「引痘新法全書(引痘略)」
邱煒輯/1847年(弘化4)
紀州・小山肆成が、邱煒の牛痘接種を伝える「引痘略」を校刊したもので、多くの医師に影響を与えた。



「散花錦囊」
緒方郁藏訳述/1850年(嘉永3)
西洋医学書数冊から牛痘種痘法の項を訳し、解説したもの。



もっとくわしく知りたい人は・・・

収蔵資料集④「はやり病の錦絵」を読めば、もっとよくわかるぞよ。
1冊2,000円じゃ。



薬草園から

秋の七草のうち薬草は何種類でしょう？

「秋の野に咲きたる花を指折(およびお)り かき数ふれば七種(ななくさ)の花 萩花 尾花 葛花 撫子の花 女郎花 また藤袴 朝がほの花」と山上憶良(やまのうえのおくら)が詠んだ万葉の歌は、私たちに秋の野の風景を思い起こさせます。現在の植物名では、ハギ・ススキ・クズ・ナデシコ・オミナエシ・フジバカマ・キキョウとされています。今日のアサガオは中国や朝鮮半島からの渡来植物でまだ野性化しておらず、キキョウは関西から関東にかけて生育していたと思われるので、このようにいわれています。

ではこの7種類のうち、薬草は何種類かと問われたら——答えは5種類です。ハギとススキには薬効がないようです。クズの根は生薬「葛根」で、発汗・解熱などの作用があるため、漢方薬「葛根湯(かっこんとう)」にも用いられます。民間療法では、風邪のひきはじめにクズ湯を飲んだり、夏に花が2~3割開いた花穂を乾燥させて煎じ、二日酔いに用いたりします。

ナデシコは全草・種子に消炎・利尿作用があり、中国で水腫・腎炎に用いますが、妊婦さんは使ってはいけません。オミナエシの根は消炎・排膿作用があります。フジバカマは漢方で利尿に用いたほか、中国では葉を乾燥させて香袋に入れ、身につけたようです。キキョウの根はサポニンを含み、漢方で鎮咳・去痰に用いました。

秋の七草は観賞するときの美しさで選ばれたともいわれますが、意外と薬草が多いようです。当博物館ではクズ・ナデシコ(カラナデシコとして)・オミナエシ・フジバカマ・キキョウがご覧いただけます。

薬用植物園主任 白井英夫

薬草園フェスタに来てくれてありがとう!!



5月26日(土)・27日(日)に、くすり博物館30周年記念事業として薬草園フェスタを開催しました。26日は晴れ、27日は朝から小雨模様でしたが、始まる頃には雨もあがりました。2日間で約2,500名の方に来ていただき、ありがとうございました。ウコン餅を始め、ハーブ・ティーセットやドングリ工作キットなど、ほとんどのコーナーが売り切れとなりました。薬草園のガイドツアーも飛び入り参加される方が多く、大変盛況でした。

帰るとき、また開催後にも皆様から「次はいつやるの?」といううれしい質問がありました。すぐに…とはいきませんが、ご期待に応えたいと思います。その折にはぜひご参加ください。



新しい収蔵資料です



触遺(ふれつかい)
1887年(明治13)/25×37
妊婦の体内と出産時の胎児の様子が描かれています。浮世絵風の絵柄に、科学的な解説の取り合わせが試みられています。



妊婦炎暑戯(みもちおんななつのたわむれ)[五頭十体の図]
1887年(明治14)/58×41
絵柄は1つの頭に2つの身体を描いたトリック・アート風ですが、科学的に胎児の様子を解説し、こどもを持つことを勧めています。

◆夏休み親子教室開催

7月28日(土)・29日(日)に毎年恒例の教室が催されました。抽選で40組の親子が選ばれ、薬草のリースとレモンに丁子(ちょうじ)を刺すポマNDERを作りました。枝を三角に組んだリースなどユニークな作品ができました。



◆今回のフォトコンテスト、

テーマは「薬草の四季」

前回のフォトコンテストでは博物館の四季のうつろいを見事に表現した作品が多数集まりました。今回もふるってご応募ください。詳しくは係までおたずね下さい。



温室には熱帯植物もありますよ!

秋から冬にかけて実のなる薬草を撮影してみては?



◆大同薬室文庫のご利用について

本年4月に刊行した「大同薬室文庫蔵書目録 附 館蔵 和漢古典籍目録」の反響が大変大きく、問い合わせもたくさん寄せられました。今回新たに利用規則を設けましたので、ご利用希望の方は当博物館図書室の司書までおたずね下さい。

毎年恒例の屠蘇散を12月に販売します。由来が書かれたオリジナルの袋入り1袋100円です。お酒だけのお屠蘇ではなく、生薬入りの正統派お屠蘇をお楽しみください。

屠蘇散いかがですか?



◆資料・図書ご提供者ご芳名◆

井上善博 今枝二郎 大瀧武雄
金成圭章 川篤眞人 北村二郎
熊谷康夫 コモリ薬局 桜井謙介
社会保険三島病院 須田寛
春山洋右 富安廣次 長門谷洋治
新村拓 日本皮膚科学会 藤田孟
横佐知子 宮下三郎 森納 安田守
(五十音順/敬称略)

ありがとうございました

内藤記念くすり博物館

開館/9:00~16:00
休館/月曜日
年末年始(12/28~1/8)

館長 三宅康夫
学芸員 稲垣裕美(編集担当)
学芸員・司書
野尻佳与子 伊藤恭子
庶務 森田麻起子
小島敦子(見学受付)
図書整理 林 知子
薬用植物園
主任・学芸員 白井英夫
栽培管理 菊谷辰行 栗本裕康
顧問 青木允夫
アドバイザー 逸見誠三郎